

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 11 日現在

機関番号：12103

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520124

研究課題名（和文） 日韓「多言語」文献・資料調査の研究

研究課題名（英文） Research of Japan-Korea "Multilingual" Literature Materials

研究代表者

劉 賢国 (Ryu Hyungkuk)

筑波技術大学・産業技術学部・教授

研究者番号：70389716

研究成果の概要（和文）：19 世紀末から 20 世紀にかけて活版印刷により日本と韓国で編纂された両国語の「学習書（①辞典及び文典類，②会話類，③単行本類）」のうち，対訳として本文或は例文を持っている文献資料を「多言語文献資料」と定義し，調査を行った。本研究では調査資料の検証により韓国語の活字字形一覧を制作し，改刻の状況を示した。また，そこから抽出された字形の設計方針，各字種の字面比およびウエイトの段階，活字サイズの変化の有無について結論を得た。特に日本，韓国と中国（上海）においての「多言語」文献・資料の調査結果から，金属活字を通じた活字の開発の関係および文化交流を明らかにし，報告書でまとめて国内外の国会図書館や関連大学の図書館などに寄贈した。

研究成果の概要（英文）：From the early 20th century to the late 19th century, typography was compiled from Japan and Korea. Multilingual tutorials such as ① dictionaries and grammar books, ② phrase books, and ③ general books, which are examples of the spectrum of the types of "Multilingual Literature Materials," were used for conducting the investigation. In this study, we verified an "Inventory list of typography glyphs" through surveys of Korean typefaces, identifying revisions and efforts to improve reliability by matching past versions to the font of the latest printing technology and standards, thus, providing a historical tracking record for the next generation. We also report the current state of the cleanup effort and the nature of each typographical phase-change: policy-shaped design, proportion and weight, type fonts, and type size. Among Japan, Korea, and China (Shanghai), the "Multilingual Literature Materials for Research" evolved from the development of movable metal-type technology and through relationships and cultural exchanges. This document, with its data cleaned up and in a report format published through Japan's, Korea's, and China's relationship with the Library of Congress, was donated to the university library.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合 計
2009 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総 計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学，芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：韓国語・日本語，多言語文献資料，活字，字形，活版印刷，印刷本

1. 研究開始当初の背景

韓国における活字研究及び字形研究は李朝銅活字が主流であり，近代活字についての研究は皆無と
いってよい。日本においても活字の字形について
の研究は関西の研究者を中心とした近世木活字に
振れており，近代活字の分析はかろうじて小宮山
博史が『明朝体 日本への伝播と改刻』の中で，
五号明朝体について 216 字のサンプル文字を抽出
して，14 年間の変化を追跡した研究だけである。
これらの研究は，韓国でも日本でもその国の中だ
けの視点でおこなっているにすぎず，近代活字が
ヨーロッパ・アメリカの印刷史と技術の延長線上
にあるという視点が欠落している。ヨーロッパで
作られた漢字書体が上海に集積され，日本そして
韓国へ伝播していったことは想像に難くない。韓
国語活字もヨーロッパでは 19 世紀には研究され
ていたし，日本でも明治 10 年代後半に作られた辞
書の印刷に使われていた。しかしその追跡あるい
は分析は未だ行われていない。

本研究は，これまで進めてきた韓国語タイプライ
ターの字形研究や各種韓日辞典の分本研究を通じ
て，韓国語活字と漢字活字の字形研究の重要性と，
活字を介しての韓日交流史構築の必要性を認識し，
明治初期・李朝末期の漢字活字・韓国語活字の開
発と伝播をより詳しく追跡し分析をおこなう。

2. 研究の目的

韓国・日本とも縦書きの文字文化を持つ。その字
形の大小広狭には当然のことながらある程度の違
いがある。それを同一の正方形のボディに収める
とき，なにが失われ，なにが加わったのか。統一
された書体構成を意図すれば，既成の手書き書体
のどれをもとに展開するのか。その上に韓国語と
漢字，漢字と仮名という共通性のない字形を混植

したときウエイトの設定をどうするのか。それは
密度の違う文字種のウエイトをどう設定するの
かに関係する。活字サイズの設定と調整はどのよ
うにおこなわれたのか。本文サイズはどう決定さ
れたのか。そして文字活字にとって必要不可欠な改
刻はどのようにおこなわれたのか。それらを印刷
資料の分析で明らかにし，さらに韓国と日本の文
字活字の共通点と相違点を抽出し，また両国にお
ける多言語混植の問題点も抽出したい。これらを
本研究の目的とする。

3. 研究の方法

(1) 平成 21 年度

韓国・日本における明治初期・李朝末期の活字印
刷物の調査と収集。特に韓国内における活字印刷
による辞書を含む書籍の収蔵調査及び印刷関連資
料の発掘を進めた。

① 韓国語の字形分析期間を 18 世紀末から 20 世
紀初頭までに設定し，この期間中に印刷された調
査文献を刊行年別に選定して時代区分を行った。

② 国内において初期の活字印刷による辞書を含
む書籍の収蔵調査及び印刷関連資料を発掘した。

③ 韓国において活字印刷による多言語辞書を含
む各種書籍の収蔵調査及び印刷関連資料を発掘し
た。

(2) 平成 22 年度

収集した活字印刷資料の分析と分類。漢字及び韓
国語を，選定したサンプル文字で各個の活字字形
についてその異同を照合すると同時に，改刻状況
を明確にした。

① 分析対象文献資料の形態の確定：会話，文典
辞典，読本文献の中から日本と韓国で使われてい
る活字書体の字形が同一であるか，別字形である
かを判定した。また印刷された両国の書籍から活

字サイズの測定と、組版ルールの抽出を行った。

② 聞き取り調査：韓国・日本ともに金属活字が消滅した現在、当時の現場の状況を早急に記録しなければ失われてしまうおそれがある。活字製造業者、活字設計・種字彫刻の職人の高齢化が進む中聞き取り調査によって記録した。現在までの調査では韓国・日本ともに3人程度が可能である。

(3)平成23年度

字形について、漢字・韓国語の活字字形一覧を制作し、改刻の状況を示し、そこか抽出された字形の設計方針、各字種の字面比およびウエイトの段階、活字サイズの変化の有無について結論を得た。これらの調査結果と文献から、韓国と日本の金属活字を通じた関係および文化交流を明らかにした。

① 韓国語の活字字形一覧の制作：「多言語資料」の分析から各各文献に現れた漢字、韓国語の字形、字素、画について分析した結果を年代順、文献名に字形を分けて一覧の作成を行った。

② 書体用の代表文字の区分：現在書体開発において「書体用の代表文字」の基準の142文字を韓国語の基本構造である6パターンの形態で区分し、その代表的な文字を抽出した。

③ 字形の設計方針：以上の字形を、字素の形態を決める要素（字素の構造、字素の大きさの比較など）と、画の特徴を決める要素（セリブの有無、画の太さなど）を中心に処理を行った。

4. 研究成果

本研究では、韓国語の活字字形一覧を制作し、改刻の状況を示し、そこから抽出された字形の設計方針、各字種の字面比およびウエイトの段階、活字サイズの変化の有無について結論を得た。

この成果は、今後の韓国タイフェイスデザイン・教育分野や韓国語フォント開発などにおいて重要な基礎資料となることが期待される。

また、本研究の大きな成果の一つは、戦後初めて日中韓のタイポグラフィ研究者が上海でセミナーと意見交換を行ったことである。東アジアの中国

と日本、韓国においての「多言語」文献・資料の調査結果から、金属活字を通じた活字の開発の関係および文化交流を明らかにし、報告書でまとめた。本研究の成果は以下の通りである。

(1)平成21年度

「多言語資料」から、各文献に現れた漢字、韓国語の字形、字素、画について分析し、その結果を年代順、文献名、字形に分けた一覧の作成を行った。

① 期間の設定：日本・韓国における明治期(1880年代, 1890年代, 1910年代), 大正期(1920年代), 昭和期(1930年代, 1940年代)。

② 文献の選定：日本・韓国における新式鉛活字により活版印刷で刊行された①辞典及び文典類(11点), ②会話類(42点), ③単行本類(21点)。

③ 文献資料の形態：①の時期に刊行された「多言語文献資料」の書目の整理や諸本の活字書体の検討による調査資料の形態の分類・分析し整理した。

(2)平成22年度

① 本調査では、現代の文字の使用頻度調査統計の全体の音節数(韓国語総文字数 1,008,200)ではなく、外国語の多言語辞典で提示している文字を基準としている。基礎資料として韓国語使用率の調査を取り上げた。本調査では、19世紀の韓国語使用頻度と活字の使用状況、また活字の生産などについて把握することができる。さらに一般的な辞典のテキストを基礎資料として利用したこと、つまり使用頻度を調査したことは今後の新字形の開発に大きな意義がある。

韓国語の基本構造である6パターンに合わせて、韓国語使用頻度調査により使用度が高い上位500位から、142個の代表的な文字を抽出した。その結果は表の通りである。

韓国語使用と関連した最初の調査は、1955年に韓国の文教部(日本の文科省に該当)で実施した『我々言葉に使用されている文字探し調査』である。今回の『明治字典』(1885)調査の場合は、二

つの特徴がある。一つ目は、漢字の画数の順位で入閣したこと。二つ目は、言語の使用順位ではなく、字典に載せてある単語を基準にしたこと。

1形	2形	3形	4形	5形	6形
子 母 1 3	子1 母2 母3	子1 母2 母3	子1 母3 子4	子1 母2 子3	子1 母2 母3 子4
가	크	과	값	굴	관

韓国語基本構造の6パターンの組合せ

●書体用の体表文字の抽出の結果

1形	2形	3形	4形	5形	6形
1 이	고	의	한	을	활
2 다	로	위	전	들	환
3 에	그	되	적	은	월
4 하	도	화	정	를	확
5 기	으	회	장	동	왕
6 지	수	와	것	물	황
7 가	주	외	성	중	획
8 서	조	그	면	국	광
9 사	우	뵈	만	분	될
10 리	보	귀	산	음	
11 나	구	되	작	술	
12 대	소	취	당	숙	
13 자	무	최	선	운	
14 시	르		상	군	
15 여	모		민	능	

1形	2形	3形	4形	5形	6形
16 어	두		신	웅	
17 아	요		단	금	
18 라	스		방	골	
19 니	오		말	급	
20 제	교		업	불	
21 계	유		학	등	
22 게	드		명	든	
23 며	료		할	들	
24 해	크		간	돌	
25 비	쓰		반	못	
26 데	초		실	름	
27 러	투		령	놀	
28 내	호		연	목	
29 야	포		김	본	
30 마	느		합	품	

●書体用の体表文字の分類

- 1) 1形: 이, 사, 지, 리, 다, 나, 여, 아, 거, 러, 어, 버, 기, 가, 치, 자, 하, 마, 시, 려, 니, 차, 비, 계, 라, 예, 저, 저, 며, 야, 노, 더, 허, 미 (以上 36 文字)
- 2) 2形: 우, 부, 오, 노, 수, 고, 요, 도, 구, 모, 추, 교, 소, 두, 무, 로, 조, 주, 드, 쇼, 그, 스, 보, 호, 느, 효 (以上 26 文字)
- 3) 3形: 할, 인, 일, 질, 신, 란, 릴, 성, 길, 갓, 경, 향, 질, 장, 간, 람, 건, 선, 방, 장, 편, 양, 영, 만, 약, 힐, 탄, 성, 찬, 참, 갑, 갈, 날, 단, 막 (以上 36 文字)
- 4) 4形: 의, 괴, 회, 뵈, 귀, 뵈, 회, E, 취, 위, 최 (以上 11 文字)
- 5) 5形: 을, 울, 흠, 틀, 불, 흘, 클, 금, 못, 공, 갓, (以上 11 文字)

돈, 복, 속, 욕, 흥, 물, 즐, 축, 웃, 움, 중, 돈, 글, 곤, 그, 홀, 승, 출, 통, 숙, 용,昊, 돌, 흥, 군 (以上 35 文字)

6) 6形: 광, 황, 완, 될, 될, 절, 철 (以上 7 文字)

(3)平成23年度

以上の字形について字素の形態を決める要素(字素の構造, 字素の大きさの比例など)と, 画の特徴を決める要素(セリプの有無, 画の太さなど)を中心に処理を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

- ① Hyungkuk RYU/ The Pioneer of modern printing and publication in Korea; Trilingual press of BaeJai Hakdang/Le Vie dei Mercanti-S.A.V.E. HERITAGE/Form UNESCO University and/Heritage/Italy/ISBN978-88-6542-046-1 /査読有/2011/119-129/
- ② Hyungkuk RYU/Study of Enlarged Textbook / Print Media of Typeface Design for People with Low Vision/Proceedings of the 8th Annual Conference of Asia Digital Art and Design Association(ADADA) /査読有/2010/226-229/
- ③ Hyungkuk RYU/ Robert Morrison' s Influence on Translation, Printing, and Publishing in Asia/IDHF (International Design History Forum) /Online Journal for Design History and Design Philosophy/Design Discourse Japan/査読有/2009/33-43/

[学会発表](計9件)

- ① 劉賢国/韓国語製字原理からみた数学的要素とタイプフェイスデザイン/日本図学会/

大阪市立大学（大阪市）/2011.11.26/

- ② 劉 賢国/視覚障害者の教育に用いた読み書き文字システムの変化—欧米における「浮きだし文字」から「線文字」そして「点字」まで（1771～1905）—/第49回日本特殊教育学会/2011.9.24/
- ③ Hyungk RYU, The implementation of Hangul typeface design: seeking co-existence and the conflict of the horizontal writing system transformed from the vertical writing system/ATypI (Association Typographique Internationale) /Reykjavik at the new Harpa Concert Hall (Iceland) /2011.9.17/
- ④ 劉 賢国/上海版『独立新聞』の発刊に伴う印刷メディアの導入とその展開/第53回意匠学会大会 / 大阪国立民族学博物館 / 2011.7.17/
- ⑤ 劉 賢国/日韓「多言語文献資料」調査研究
(2) —多言語辞典に見る韓国語活字の字形の調査—/日本デザイン学会/第58回研究発表大会/千葉工業大学（千葉県）/2011.6.2/
- ⑥ 劉 賢国/日韓「多言語文献資料」調査研究
(1) —東京築地活版製造所による多言語『明治字典』に見る活字書体の開発—/日本デザイン学会/第57回研究発表大会/長野大学（長野県）/2010.7.3/
- ⑦ Hyungk RYU/Font design for use in the classroom by the visually impaired-Proposal of a guideline for media and font design-/ATypI (Association Typographique Internationale)/Dublin Institute of Technology (Ireland) /2010.9.10/
- ⑧ Hyungk RYU/Hangul Typewriters of the Typeface Design/ATypI (Association Typographique Internationale)/The School of Design of Anáhuac University (Mexico) /2009.8.27/
- ⑨ 劉 賢国/韓国最初活版所「文光書院」中国

におけるその動向/日本デザイン学会/第56回研究発表大会 / 名古屋市立大学 /2009.6.27/

〔図書〕（計1件）

- ① 劉 賢国/他5人/中国・日本・韓国合同セミナー「上海美華書館と近代印刷/活字伝来の源流を探る」/アシスト・プロ社 /2012.2.29/50/

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.leviedeimerconti.it/2011/2011e/program.html>

<http://www.atypi.org/past-conferences/2011-reykjavik>

<http://www.shotype.com/jp/blog/archives/2010/09/08-shotype-235956>

<http://www.designhistoryforum.org/dd/>

http://www.atypi.org/30_past_conferences/04_Mexico/40_timetables/view_presentation_html?presentid=599

6. 研究組織

(1) 研究代表者

劉 賢国 (Ryu Hyungk)

筑波技術大学・産業技術学部・教授

研究者番号：70389716